

々長藤井日静総裁、立正大学長坂本日深顧問等の挨拶がそれぞれあって、研究発表に入った。

午後は一時半より、「教団論」の共同テーマで、高橋堯慧師・丸山照雄師・三瓶巖厚師の三講師による特別発表があった。教団論について、活潑な質疑応答もあり、熱のこもった研究大会であった。この後、五時より会員懇親会が開かれ、終始なごやかな内に第一目を終え、翌二日目は午前中一般の研究発表があり、最後に立正大学仏教学部長野村耀昌副会長の閉会の辞をもって、二日間にわたる大会を終了した。

尚、二日目に長井弁順師が、「三秘の序列について」という注目すべき発表をおこない、閉会後も有志による研究協議がなされた。

「三秘序列について」

室 住 一 妙

長井氏の御発表のあと、質問時間の時二之部師が立って宗務院に上申したらどうか？という提議があった。そこで

之はよく吟味してから善処するよう、この大会終了後に有志者にお話し相いを願いたいと頼んだ、が然し、残った人は矢谷・浦上・疋田・室住の四名。そのときの議に本いて資料をリコピーにして送って意見を求めた。しかし、特に意見をよせる人はなかった。ついでの方に茂田井先生に会うて日教研の御意見を話してもらう。「長井師の説は一往もっともで、研究の参考にはなるが、それですぐと、「宗義大綱」を改訂するには及ばない。あの順はただ説明上の便宜に止まるもので、強いて押しつけるものではない。だから長井師の本門戒壇の義分の内容はよい点は包容できよう。云々」

そこで、ここまで扱ってきた私一個の意見としては、「三秘と戒壇」の問題は事、重大であるから、聖誕七五〇を記念して、毎年、まじめな研究を発表していただきたいと念願する。

なお、直接参考資料としてリコピーして送附したものは、
一、長井師の今回の発表論文、
二、全師の棲神廿五号掲載の「本門戒壇の性格」

三、全師が昭和四十四年十月四日付茂田井教亨教授に質問書を出された、その返書。(十月廿七日付)

四、宗務院発行「宗義大綱」の「三秘」の項四頁。以上である。

日本印度学仏教学会

第二十一回日本印度学仏教学会の学術大会は、花園大学を当番校として、七月十一日、十二日の両日にわたり、開催され第一部会から第八部会にわかれて、それぞれ熱心な研究発表がおこなわれた。

本学からの研究発表者は、次の通りであった。

一、日蓮教学における浄土と穢土

上田 本昌

— お 願 い —

◎本誌は「会員制」となっております。会費は年額千円です。発行のつど同封の振替用紙をご利用の上、ご送金下さい。

◎お知り合いの方々の中で、まだ入会されていない方には、ぜひご入会下さるようお勧め下さい。